

文部科学省支援・推進

専門人材の基盤的教育推進プログラム

平成22年度研究拠点形成費等補助金(産学連携による実践型人材育成事業)

教育プロジェクト名

「エアブラシメイクアップの有用性の実証と方法論の確立と人材育成プログラムの開発」

(略称:エアブラシメイクアップ プロジェクト)

補助事業実施期間 平成22年6月1日～平成23年3月31日

報 告 書 & 成 果 物

- 1: 事業成果報告書
- 2: 薬事検討報告書
- 3: アンケート調査報告書
- 4: 事業成果物
 - 4-1: テキストブック(エアブラシメイクアップ 101 テキストバージョン)
 - 4-2: ワークブック(エアブラシメイクアップ 101 ワークブック)
ワークブックは白黒なのでコピーしても使用できます。
 - 4-3: DVD(エアブラシメイクアップ 101for Japanese makeup artist)
 - 4-4: 薬事Q&A集

また、上記成果物はホームページより電子版がダウンロードできます。

ホームページ: www.tva.ac.jp/airbrushPJT/

問合せ先: e-mail abproject@tva.ac.jp

エアブラシメイクアップ プロジェクト 代表校 専門学校 東京ビジュアルアーツ

〒 102-0081 東京都千代田区四番町 11

電話 03-3321-0206 メイク学科

エアブラシメイクアップ プロジェクト委員会

文部科学省支援・推進

専門人材の基盤的教育推進プログラム

平成22年度研究拠点形成費等補助金(産学連携による実践型人材育成事業)

成果報告書

教育プロジェクト名

「エアープラシメイクアップの有用性の実証と方法論の確立と人材育成プログラムの開発」

(略称:エアープラシメイクアップ プロジェクト)

補助事業実施期間 平成22年6月1日～平成23年3月31日

プロジェクト実施委員

橋本 邦比兒(専門学校 東京ビジュアルアーツ)

白岩 直明(専門学校 東京ビジュアルアーツ)

菅野 文子(専門学校 東京ビジュアルアーツ)

浅野 覚仁(専門学校 東京ビジュアルアーツ)

奥山 一成(山野美容専門学校)

北野 幸子(ハリウッドビューティ美容専門学校)

井上 和彦(早稲田美容専門学校)

板橋 晃子(群馬県美容専門学校)

川添 雅英(ECC アーティスト専門学校)

大島 耐之(金城学院大学薬学部)

浅野 みどり(名古屋大学医学部保健学科)

浅野 輝幸(TEMPTU JAPAN)

廣瀬 文人(TEMPTU JAPAN)

エアープラシメイクアップ プロジェクト 代表校 専門学校 東京ビジュアルアーツ

〒 102-0081 東京都千代田区四番町 11

電話 03-3321-0206 メイク学科

エアープラシメイクアップ プロジェクト委員会

教育プロジェクト名

「エアークラシメイクアップの有用性の実証と方法論の確立と人材育成プログラムの開発」

(略称:エアークラシメイクアップ プロジェクト)

補助事業実施期間 平成22年6月1日～平成23年3月31日

本プロジェクトは平成 22 年度 文部科学省の専門人材の基盤的教育推進プログラムに採択され、文部科学省の支援・推進のもと行われています。

尚、23 年 3 月の地震により、一部の運用講義、アンケート分析、テキスト・ワークブック・DVD 発送等に影響があり、翌 23 年度に運用講義、アンケート最終分析、テキスト・ワークブック・DVD 発送がずれ込みました。(文部科学省の支援は 3/31 までで、ずれ込み分はプロジェクトが負担)

(1)プロジェクトの概要

より繊細で高度なメイクアップはエアークラシなくしてはできないが、日本におけるエアークラシメイクは未熟である。本プロジェクトはエアークラシメイクの有用性を実証し、その方法論を早期に統合、確立した上で、人材育成プログラムの開発を行う。この基礎理論と育成プログラムの開発は映像と画像のHD化への早急な対応のために必須であり、F/X、カバー、福祉介護美容、コメディカル分野への応用のための基礎をなす。

(2)プロジェクトの内容について

エアークラシの利点である、薄膜、発色、均一性は従来のハンドアプライのメイクでは実践できない表現を可能にする。すでに始まった米国でのTVや映画のHD(ハイデフ:ハイビジョンはNHKの商標登録)への移行はエアークラシメイクでしか対応できないことを示唆した。映像のHD化へのメイクアップの対応は、より繊細で高度なメイクアップであるエアークラシなくしてはできない。また、CG(コンピュータ グラフィックス)化はコストパフォーマンスが悪く、F/X(特殊)メイクが見直されている。F/X(特殊)メイクにおいても、エアークラシメイクアップは必須な技術である。このような映像や画像のHD化や需要に対し、メイクアップの対応が必要である。エアークラシメイクの応用範囲はすこぶる広い。日本ではエアークラシメイクは未熟なもので、使用する材料の区別もできていない。ビューティメイクからアグリーメイクさらにはF/X(特殊)メイクまで幅広く対応することが、本来のメイクアップと位置付けられ、現場では多様な要求がメイクアップアーティストに求められている。しかし、多くのメイクアップアーティストは従来のハンドアプライの化粧しかできず、多様化する要求には応じられない。エアークラシメイクアップの方法の統合、確立はこのような多様化した要求に対応することができ、応用することができる。さらに、エアークラシメイクはコメディカルの分野でも注目されている。痣やタトゥなどを隠すカバーメイクはエアークラシなくしては困難である。福祉介護においては、エアークラシメイクのノンタッチと薄膜による肌への負担の軽減が福祉介護美容に取り入れられ、基礎技術としてのエアークラシメイクアップの確立を必要としている。また、人生の終末の化粧としての死化粧なども、エアークラシのノンタッチゆえに衛生面からもその利用が求められている。すでに、一部分野ではエアークラシを導入しており、特にビューティメイクでは

HD対応やブライダル対応、カバーメイクなどが実需として要請が多い。また、ボディアートやF/Xの分野においても、エアーブラシでより繊細な表現が要求されてきている。美容福祉(美容福祉は山野学苑の商標登録)においてはフェイスだけでなくヘアーダイ(薬品によるストレスが多い)にかわるものとして応用されている。従来のハンドアプライのメイク分野だけでなく、ハンドアプライでは考えられない分野で使用され、求められている。本プロジェクトの目的の一つである、エアーブラシメイクアップの有用性の実証とメイク方法の統合、確立は基礎理論となるものであり、その確立が急務である。早期に百者百様の方法を統合し、その方法論を確立し、人材育成プログラムを開発し、適用しなければならない。

エアーブラシメイクの有用性は、ハンドアプライにできない仕上げ(芸術的表現はもとより物理的な機能からの見栄えも含む)にある。また、ハンドアプライ以上に、肌に負担をかけずにメイクできる点にある。実際のメイク後をマイクロスコップで見ればよくわかる。さらに、ノンタッチとインクの多様性は、多くの分野での需要を顕在化してきている。現時点では一部の者しかエアーブラシメイクの良さが認識されておらず、第一に、多くの者にエアーブラシメイクアップの有用性を周知することから始めなければならない。

第二に、エアーブラシメイクの方法の統合と確立が必要である。メイク理論(コンシール、ベース、カントア、ブラシュ、チーク、ブロウ、ハイライト、シャドウ、リップ、修正、ヘアー、カバーメイクなど)は従来のハンドタッチとなんら変わることはない。しかし、材料や溶剤ベースが異なり、それらを理解して使用することが必要である。これらの一連のメイク理論を再構築し、エアーブラシメイクアップの方法を早期に確立する必要がある。

最後に、上記の完成された方法論と有用性の理論的根拠を経て、人材育成のプログラムを開発し、参加校において適用し、検証し、修正を行う。完成した人材育成プログラムの適用によって、早急に高度な資質を持つメイクアップアーティストを育成することができる。

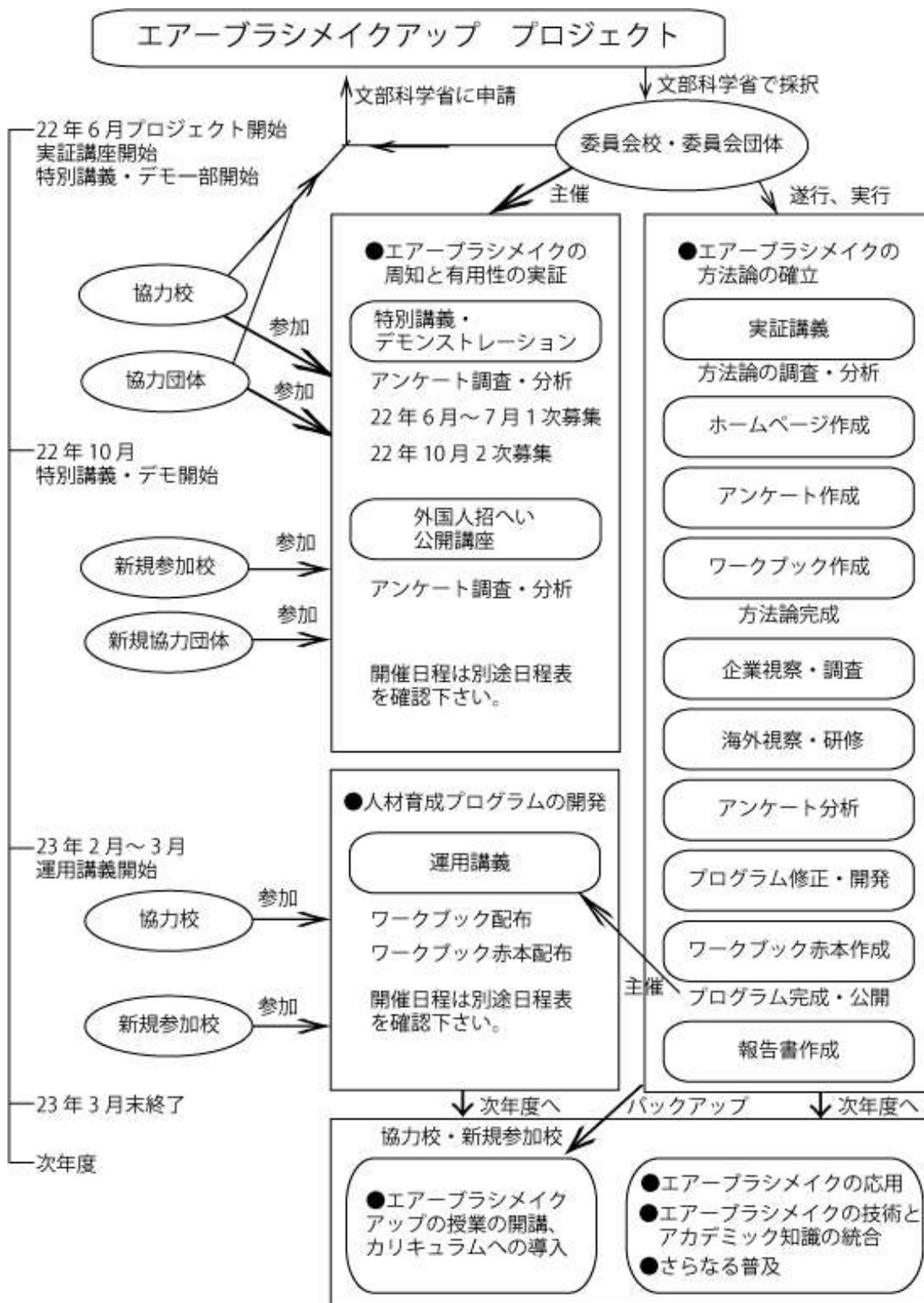
また、プロジェクト終了期において、教員向けに人材育成プログラムの運営のための集中講義を行い、より早急な普及を目指す。

上記の内容を具体的プロジェクトとし、すでにエアーブラシを取り入れている6校を委員会校とし、産業界の協力を得て本プログラムを遂行した。

以下にプロジェクトの具体的計画と遂行および結果について報告します。

(3)プロジェクトの遂行と実施

本プロジェクトの実施計画に基づき、目的ごとに以下のフローチャートを作成し、サブプロジェクトを遂行することとした。



本プロジェクトの目標は以下の3点である、

1: エアーブラシメイクアップの周知と有用性の実証

2: エアーブラシメイクアップの方法論の確立

3: 人材育成プログラムの開発

1については協力校、参加校を募集し、特別講義を行い、エアーブラシメイクアップの周知およびアンケートによる評価を行った。また、産業界にも参加を呼びかけ、外国人招聘公開講座において周知およびアンケートを行った。

2、3においては実証研究校(委員会校)で分担し、数回の会議を通して協議を行い、最終的にテキスト、ワークブック、DVDの制作を行い、本プロジェクトの成果を参加校に配布する。最後に運用講義を行い、教育者の育成を実践的に行い、次年度からのカリキュラム導入を可能にした。

以下において目的によるサブプログラム別に事業の実施および概要等について報告します。

1: エアーブラシメイクアップの周知と有用性の実証

① 特別講義: エアーブラシメイクの周知と有用性の実証のために、参加校を募り特別講義・デモンストレーションを実施した。

通算で45回実施した。特別講義ではそのほとんどを技術的な講習とし、エアーブラシメイクが実感できるようにした。最後にアンケート調査を行い分析した。特別講義総受講者数(先生も含む)は2280名、有効回答は1805名であった。

② 外国人招聘公開講座: 特別授業への参加ではなく、個人的に参加する先生やメイクを業とする方への講座とした。8回開催し一般210名、生徒380名が受講した。

2: エアーブラシメイクアップの方法論の確立

① 実証講義: 委員会校において、すでに開講している講義で実証研究を行った。時間配分や、内容などを討議した。

② ホームページ作成: 本プロジェクト情報公開のため作成した。

③ アンケート作成: エアーブラシメイクアップを評価するために作成。

④ ワークブック作成: 方法論を具体化し体现する必要があり制作をする。しかし、教授陣の養成が急務であることから、テキストブックをメインとすることとした。

⑤ 企業視察・調査: 必要性が薄く中止。代わりに外国人招聘講座においてアンケート調査を行った。

⑥ 海外視察・研修: 海外での動向調査、および最新技術の調査のため海外研修及び視察をおこなった。

- ⑦ アンケート分析 : アンケートの分析を行い、エアーブラシメイクアップを評価した。アンケート分析はその後となる。3/31日時点では中間報告。
- ⑧ プログラム修正・開発、ワークブック赤本作成 : テキストブック128ページカラー500冊、テキストブック64ページ1000冊黒。
DVD500枚を製作した。

3: 人材育成プログラムの開発

- ① 運用講義 : 人材育成のための運用講義をおこなった。教授陣養成のための集中講義であり、4日×8時間を1クールとして計4回おこなった。58名の応募があった。
3月11日に地震があり対応を余儀なくされた。振替講義を5月以降に行うことを決定した。
- ⑨ 薬事検討 : フローチャートには記載されていないが、薬事分析は本プロジェクト立ち上げの際に検討すべきものとされている。予算配分も当初からなされている。薬事的見地より、安全・安心の検討をおこなった。

(4)プロジェクトの成果

本プロジェクトの成果を以下の目標ごとに報告します。

- 1: エアーブラシメイクアップの周知と有用性の実証
- 2: エアーブラシメイクアップの方法論の確立
- 3: 人材育成プログラムの開発

1: エアーブラシメイクアップの周知と有用性の実証

特別講義、外国人招聘公開講座を通じて、学校、一般に対しエアーブラシメイクを周知し、同時にアンケート調査をおこなった。アンケートではほとんどの方はエアーブラシメイクの文言は知っていても、内容はほとんど知らない。また、講義後はエアーブラシメイクの必要性が認識され、ハンドアプライとエアーブラシメイクの相互補完関係が理解され、エアーブラシメイクの有用性は実証された。まさに「一見は百聞にしかず」である。エアーブラシメイクを見させ、体験させること自体に大きな意味がある。

- ① 特別講義: 通算で45回実施した。また、1校はインフルエンザのために開催できなかった。しかし、他8校においては日程調整ができず、特別講義は見合わせとなった(一部日程調整したが、最終的に日程調整できなかったものを含む)。これは、予算執行の遅延問題より、早期に日程調整ができなかったために、後期に入り参加校を募集したが、すでにカリキュラム編成が行われた後のために、日程調整が難航したためである。

実際多くの学校は23年度の特別講義を希望した。

特別講義では、生徒用に簡単な資料を制作し配布した。これはテキストブック素案より重要項目を抜粋したものであり、エアーブラシメイクの全体像が把握できるようにした。

特別講義ではそのほとんどを技術的な講習とし、エアーブラシメイクが実感できるようにした。最後にアンケート調査を行い分析した。特別講義総受講者数(先生も含む)は2280名、有効回答は1805名であった。

日程は以下の通り

調整できなかった学校
山野芸術短期大学
東京ビューティーアート専門学校千葉校□
東京フィルムセンター映画・俳優専門学校□
東京総合美容専門学校
静岡服飾美容専門学校
大阪観光専門学校
大阪デザイナー専門学校
大阪ビジネス専門学校

日付	曜日	東地区			予定数 生徒
2010年8月10日		特別講義	山野美容福祉	東京都	80
2010年11月10日	Wed	特別講義2.5H	横浜ビューティーアート	神奈川県	36
2010年11月17日	Wed	特別講義2.5H	横浜ビューティーアート	神奈川県	70
2010年11月19日	Fri	特別講義	早稲田美容専門学校	東京都	71
2010年11月22日	Mon	特別講義	早稲田美容専門学校	東京都	51
2010年11月24日	Wed	特別講義	仙台モイジャパン美容専門学校	宮城県	65
2010年12月1日	Wed	特別講義	札幌ビューティーアート	北海道	54
2010年12月8日	Wed	特別講義	群馬県美容専門学校	群馬県	70
2010年12月10日	Fri	特別講義	マックス美容専門学校	東京都	69
2010年12月13日	Mon	特別講義	東京デザイナー学院	東京都	15
2010年12月15日	Wed	特別講義	山野美容専門学校	東京都	40
2010年12月20日	Mon	特別講義	仙台ビューティーアート	宮城県	87
2011年1月12日	Wed	特別講義	山野美容専門学校	東京都	40
2011年1月13日	Thu	特別講義	山野美容専門学校	東京都	40
2011年1月14日	Fri	特別講義	山野美容専門学校	東京都	40
2011年1月17日	Mon	特別講義	山野美容専門学校	東京都	40
2011年1月19日	Wed	特別講義	ハリウッドビューティ専門学校	東京都	20
2011年1月21日	Fri	特別講義	ハリウッドビューティ専門学校	東京都	280
2011年1月24日	Mon	特別講義	山野美容専門学校	東京都	40
2011年1月26日	Wed	特別講義	国際ビューティモード専門学校	新潟県	125
2011年1月27日	Thu	特別講義	山野美容専門学校	東京都	40
2011年1月28日	Fri	特別講義	山野美容専門学校	東京都	40
2011年1月31日	Mon	特別講義	埼玉県理容美容学校	埼玉県	180
2011年2月4日	Fri	特別講義	資生堂美容技術専門学校	東京都	20
2011年2月15日	Thu	特別講義	東京ビジュアルアーツ	東京都	30
2011年3月7日	Mon	特別講義	東京ビューティーアート	東京都	19
2011年3月10日	Wed	特別講義	住田美容専門学校	東京都	83
2011年3月22日	wen	特別講義	クリアヘアーモード	新潟県	5
					1690

日付	曜日	東地区			予定数 生徒
2010年11月8日	Mon	特別講義	富山美容専門学校	富山県	8
2010年11月17日	Wed	特別講義	ECCアーティスト学園	大阪府	22
2010年11月19日	Fri	特別講義	宮崎サザンビューティー	宮崎県	27
2010年11月24日	Wed	特別講義	福岡ビューティーアート専門学校	福岡県	8
2010年11月26日	Fri	特別講義	福岡ビューティーアート専門学校	福岡県	35
2010年12月8日	Wed	特別講義	国際デザインビューティーカレッジ	高知県	71
2010年12月13日	Mon	特別講義	日本高等美容専門学校	兵庫県	29
2010年12月15日	Wed	特別講義	九州スクールオブビジネス	福岡県	4
2010年12月21日	Tue	特別講義	名古屋ビューティーアート	愛知県	42
2011年1月11日	Tue	特別講義	アンビシャス国際美容学校	大分県	36
2011年1月14日	Fri	特別講義	名古屋美容専門学校	愛知県	120
2011年1月20日	Thu	特別講義	名古屋美容専門学校	愛知県	
2011年1月25日	Tue	特別講義	広島ビューティーアート	広島県	15
2011年2月3日	Tue	特別講義	明星国際ビューティーカレッジ	大分県	42
2011年2月8日	Tue	特別講義	名古屋観光専門学校	愛知県	14
2011年2月10日	Thu	特別講義	大阪観光、大阪デザイナー、大阪ビジネス各	大阪府	0
2011年2月16日	Wed	特別講義	三重ヘアーアーティスト学院	三重県	46
2011年2月18日	Fri	特別講義	穴吹ビューティーカレッジ	広島県	60
2011年2月21日	Mon	特別講義	九州観光専門学校	福岡県	0
					590

特別講義の評価は大変良い。ほとんどの学校では知ってはいるが見たのは初めてである。また、エアブラシメイクの必要性や有用性は認められたといえる。しかし、教授陣が全くいないのが現状である。

多くの参加校は、エアブラシメイクの知見はあるが、その方法や運営においては全く知識がなく、どうすればよいかわからない状況であった。

本特別講義は先生方に方向性を与えたものとして大いに評価される。

特別講義参加校からの運用講義への問い合わせは多く、当初1校1名としたが、数名の参加希望が多く見受けられた。これは、もはや導入すべきとの認識から、数名の教員養成を行い来年度からの導入を決定づけたい狙いがある。特別講義参加申込の学校は41校である。また、締切後の問い合わせも多く存在した。

特別講義の募集方法からすれば反応は大変良いと言える。

また、多くの学校は来年度での特別講義参加を希望した。本来は前期中に募集し、後期カリキュラム編成時に授業の一環として参加することとなれば参加校数は多くなる。

メイク関係専門学校は美容学校を含め300校程度あるが、そのなかで41校の参加は反響が良いと言える。また、問合せ等を含めると70校近い。

特に美容学校がメイクに興味を示す。

- ② 外国人招聘公開講座：特別授業への参加ではなく、個人的に参加する先生やメイクを業とする方への講座とした。開催は以下のとおりである。

外国人招へい公開講座			一般	生徒	合計
2011年2月12日	公開講座	山野美容専門学校1回目	28	15	43
2011年2月12日	公開講座	山野美容専門学校2回目	25	10	35
2011年2月13日	公開講座	山野美容専門学校1回目	35	10	45
2011年2月13日	公開講座	山野美容専門学校2回目	10	10	20
2011年2月14日	公開講座	ECCアーティスト専門学校1回目	15	0	15
2011年2月14日	公開講座	ECCアーティスト専門学校2回目	7	0	7
2011年2月15日	公開講座	ハリウッドビューティ専門学校	69	300	369
2011年2月16日	公開講座	名古屋美容専門学校	21	35	56
			210	380	590

外国人アーティストはシャンノンポーリット(TEMPTU NYC)を招聘した。

ニューヨークファンションショウなどで活躍するアーティストである。

最新の技術をデモンストレーションすることによりエアブラシメイクの現状を把握することができ、現役アーティストであることで、デモンストレーションを通じて、自己との比較や違いを確認することによって、レベルの差異を認識できるようにした。

企業向けにも案内を出し、参加募集をした。一般参加は210名、生徒参加380であ

る。一般参加者にアンケートを取った。有効回答は142名である。

回収率は一般にしては良いと言える。

当初は会場を借りる予定であったが、全体会議において、経費節約により印刷、DVDの冊数を増やすとの観点より、委員会校において行うことになった。特にハリウッドビューティでは大講堂を使用することとなり、また、生徒への聴講希望もあり大所帯となった。

企業訪問でのアンケート調査を中止し、外国人招聘講座においてアンケート調査することとした。これは、訪問予定先の企業等のほとんどより申込があったために一括してしたほうが効率的であること、多くの企業とのやりとりがすでにおこなわれており、あえて訪問するまでないことなどのためである。

50名程度の会場では活発な質問のやり取りがあった。特に、プロのメイクさんや企業の方は細かいところまで質問をし、委員会としては有意義な質問も多く、テキストへの修正項目を整理することができた。

特に、委員会としてはすべてをエアブラシとすべきかどうかにおいて、現実的な意見のやり取りから、エアブラシとハンドアプライの補完的相互関係において使用すべきとの認識に至る。

短期間の募集の割には多くの方が参加した。アンケート結果でも講義の意義を多くの方が認めている。

2: エアブラシメイクアップの方法論の確立

実証講義により大まかな方法論は早期に構想できた。

特別講義、外国人招聘講座、海外研修を経て方法論の修正、追加を行った。時間的に余裕があり修正、追加を十分に検討することができた。

- ① 実証講義: 委員会校はすでにエアブラシメイクアップを何らかの形で導入している。各校の授業を通じて、人材育成プログラムの内容及び時間配分を精査することが目的である。エアブラシ機器の配布により2人で1台としたことにより、演習時間ロスが大幅に省けた。そのぶん高度な練習のための時間を取ることができ生徒のレベル向上につながった。実証講義においてもやはり技術中心になるが、今後はアカデミック知識の授業も必要であり、さらに実践を踏まえた、フェースチャートやプロポーション理論への対応が必要と思われる。本プロジェクトではベーシックの確立を第一義としたのであり、実践応用はアドバンスとして今後の課題としている点では、十分にベーシック部分での方法論は構築できたと思われる。前期に草案ができたために、後半はその修正のために費やされた。最終案は海外研修後に完成した。時間的にも余裕があったので、内容としての出来栄は良い。

- ② ホームページ作成：当初予算が少ないために、告知をするものとしページ作成を行った。しかし、各種問合せなどを踏まえ、より精密なページの構築が必要となり見直すこととした。報告や連絡などもHPを介して行うこととした。8月末時点ではすでに完成し、ページビューも増えていった。
- また、ブログを設定し、特別授業などの報告を行った。
- 今後もHPを維持し、成果物の公開を行う。
- ③ アンケート作成：アンケートの専門家である名古屋大学医学部保健学科の浅野みどり教授の参加により、スムーズに行うことができた。アンケートの目的はメイクの専門家である実証研究校の先生が起草し、それを簡単に具現化、制作することができた。8/10の第一回特別講義が急きよ決まったのを受けて短期間で仕上げた。8/10の第一回が生徒向けではなく、NPO法人等を含む社会人向けであったために、企業向けの対応も盛り込んだ。そのため、その後一部削除をしたが、その後の企業向けアンケートを作成する必要がなく、すべてに対応できた。
- アンケートの回収率は良く、受講者の興味は高い。
- ④ ワークブック作成：当初はワークブックをメインとし、テキストブックを赤本的に作成する予定であった。しかし、プロジェクトを遂行しているうちに、講師陣の知識のなさにより丁寧なテキストの必要性に鑑み、テキストブックをメインとしワークブックをサブとすることとした。
- 特別講義においては本来のテキストブックから抜粋とし、一部ノート形式として、簡易テキストとして配布した。14ページ一部カラー。
- 簡易テキストはエアブラシメイクアップの全体像が分かるようにした。そのため、特別授業では、特別授業で取り扱わない項目の質問が多く見受けられた。また、取り扱わない項目の授業の要請も多くあった。
- ⑤ 企業視察・調査：前述したように必要がなくなり、外国人招聘講座においてアンケート調査を行った。
- ⑥ 海外視察・研修：日程の調整が難航し、日程に合わせると良いメイクアップ関係のショーがないので、もともとの研修に力を入れた。ハードスケジュールであった。海外企業の訪問も含めた。
- 1日目：NY朝到着、お昼ホテル入り。2班に分かれる。
- 男性チーム：メーロン(MEHRON)訪問。メーロンは最近ではアカデミーショーノミネートのブラックスワンのメイクに採用され、そのアーティストが担当した。事務所、工場を訪問し現在のアメリカのエアブラシメイクについてインタビューした。
- 女性チーム：市場調査、セフォラ等のコスメショップでの商品の調査。個人向けのエ

エアブラシメイク用品がすでに販売されていた。

夕方：合流。MUD(MAKE UP DESIGNARY SHOOOL)訪問。ニューヨークのトップクラスのメイク学校である。学校施設や授業風景の見学をする。

2日目、3日目：2日間の講習(10:00~5:00)。

TEMPTUの本社スタジオで研修。ダニー・ホンセスカによる講義。

ダニーは最近ではレディガガのボーンディスウェイ(born this way)のプロモーションビデオでボディアートを担当。間もなく日本でも公開予定である。多くの雑誌や映画、ファッションショーなどでメイクする第一人者である。講習1日目はエアブラシメイク、講習2日目はエアブラシを応用したFX、老人、ゾンビメイクなどである。

第一人者に講義を受けたことで自分との差異などを把握することにより、一方では自信となり、他方では落胆した。

ビューティメイクではあまり差がなく、その他ではありすぎ。我々はビューティメイクでは自信をつけたが、エアブラシの応用では全く及ばない。とても有意義であった。

- ⑦ アンケート分析：特別講義が3月までずれ込んだため、アンケート分析はその後となる。一部データ入力を行い、テスト分析を行った結果は良好であった。すべてのデータ入力を行ったあとで分析となる。また、ソフトの調達が遅れたために、すべて名古屋大学での分析となる。

データ数は、有効データ数は1947名である。標本調査としては大きな数字である。そのため分析結果の信頼性は高い。3/22日が最終のアンケート調査である。その後の分析し、現時点では中間結果の添付(3/31日)となる。法律ではプロジェクト終了後60日であるので、最終報告にはまだ時間が必要である。

中間報告においては、エアブラシメイクアップの導入の必要性は顕著にみられる。また、授業の開講要請も多く、人材育成が急務である。

- ⑧ プログラム修正・開発、ワークブック赤本作成：人材の育成開発プログラムはテキスト、ワークブック、DVDの作成とそれらを使った運用講義を通じて完成する。

テキストの修正は外国人招聘講座およびNY研修を経て一部修正が行われた。写真等の差し替え、再執筆などで運用講義にはベータ版を使用した。また、運用講義を通じてのテキストの評価を踏まえ再々修正も検討した。運用講義でのテキストの評価は高く、受講者からは正本の送付依頼が来ている。さらに、一校あたりでは数冊の送付依頼がある。今後調整が必要である。予算配分の修正により、印刷、DVDの予算を多くした。

テキストブック128ページカラー500冊、テキストブック64ページ1000冊 黒

DVD500枚を製作した。

3:人材育成プログラムの開発

メイクアップの方法論の確立を経て、それらをテキストにまとめ育成プログラムの基本とした。テキストを使用し、まずは急務である教授陣の育成のために運用講義を開催した。予想以上に運用講義の参加申込があり、4クール行った。同時にアカデミック知識の重要性に鑑み薬事検討を行った。

- ① 運用講義:学校の講師向けに実際と同じような時間配分によって講義を行い、即戦力となるようにした。運用講義は短期集中で4日x8時間=32時間とし、そのまま通常の授業カリキュラムとして運営できる形をとった。

運用講義は講師陣が対象であり、授業の流れや練習方法なども教授しなければならないので、1クール10名程度の予定で行うとしたが、申し込みが多く15名~20名程度まで受け入れることとした。

また、予算削減のために実証研究校で行うとしており、各校の協力の下に行うことができた。

募集は特別講義と同時に行ったが、当初は応募がなかった。そのために1/4-7日に予定していたA日程を中止した。これは、日程が正月であること、特別講義が終わっていない学校が多く、各学校の方針が決まっていなかったためである。

その他日程として東京2回、大阪1回は当初より決定していたが、福岡1回、名古屋1回は応募の様子を見て決定とした。その結果、名古屋1回、福岡は非開催とした。日程は3月後半とし、募集した。このころは各専門学校とも卒業、入学準備、新学期と忙しい時期であり4日の参加で断念する方も多く見受けられた。特に福岡地区は7名程度の参加があったが、日程調整ができずに見送った。最終的には58名の応募があった。

尚、一般からの問合せも多くいただいたが、運用講義は専門学校等の先生のみとし、プライベートスクール及び一般の方は参加不可とした。

また、4日間の出席が難しい方も多く、最低3日の出席を条件とした。

日程ごとの応募人数は以下の通り

日付		クール	会場	申込数	実受講数
2011年3月12日	Sat	運用講義B	東京会場:山野	12	0
2011年3月13日	Sun	運用講義B	東京会場:山野	12	10
2011年3月14日	Mon	運用講義B	東京会場:山野	19	4
2011年3月15日	Tue	運用講義B	東京会場:山野	21	4
2011年3月17日	Thu	運用講義C	東京会場:TVA	17	15
2011年3月18日	Fri	運用講義C	東京会場:TVA	17	15
2011年3月19日	Sat	運用講義C	東京会場:TVA	25	22
2011年3月20日	Sun	運用講義C	東京会場:TVA	24	21
2011年3月12日	Sat	運用講義D	大阪会場:ECC	13	10
2011年3月13日	Sun	運用講義D	大阪会場:ECC	13	7
2011年3月14日	Mon	運用講義D	大阪会場:ECC	13	10
2011年3月15日	Tue	運用講義D	大阪会場:ECC	13	8
2011年3月24日	Tue	運用講義E	名古屋会場:名美	9	8
2011年3月25日	Wen	運用講義E	名古屋会場:名美	9	9
2011年3月26日	The	運用講義E	名古屋会場:名美	9	8
2011年3月27日	Fri	運用講義E	名古屋会場:名美	9	9
			のべ合計	235	160
東京は変則あり:土日+土日など					

3月11日に地震があり対応を余儀なくされた。

東京Bクールでは、初日12日は現場に待機したが、中止と決定した。

13日は開講としたが、2名は来られなかった。

14日は首都圏の交通がマヒしたためにほとんどの方が来ることができなかった。この時点で会場である山野美容専門学校自体が閉鎖となり、一部中止を決定した。さらに、振替を行うこととし、安全確保できない方は振替に出席するように促した。遠隔地から来られ、東京のホテルに滞在している方が4名いたので完全中止することは避けた。急きよ、TEMPTUの代々木SOHOスタジオでの講習に変更し、運用講義を続けた。

振替は5月以降に行うものとし、HPでも告知した。東京Cクールは会場であるビジュアルアーツで協議し開催を決定。ビジュアルアーツは、自身の学校は閉鎖するも、本プロジェクト用に会場を提供した。

東京Cクールの参加者に連絡し安全第一で、振替に出席するように促した。17日は交通機関も平常に戻り、ほとんどの方が参加することができた。

大阪Dクールでは大阪以西の方が飛行機、新幹線等の遅れやマヒで出席することができない方がいた。

名古屋Eクールは平常通り行うことができた。

地震後にもかかわらず多くの参加を得たことは、エアーブラシメイクアップへの興味と

期待が大きいことが窺われる

- ② 運用講義の内容：テキストのベータ版を使用し、ワークブックもベータ版を使用した。DVDはプレス前のために使用しない。もっとも実演をするので使用する必要はない。実際の授業のように行い、練習時間も取って行った。テキスト、ワークブックの評価は高く、正本の送付依頼が多く来た。学校単位では数冊の依頼である。講習最後では概ねエアブラシメイクを修得した。指導法も修得し即戦力となるとことを実感した。

運用講義参加校はすべて翌年度からのカリキュラムへの導入を検討している学校であり、至って真剣である。

すでに、導入を決めた学校も多くプロジェクトの評価は高い

- ⑨ 薬事検討：薬事分析は本プロジェクト立ち上げの際に検討すべきものとされている。予算配分も当初からなされている。エアブラシメイクアップ用の製品は国産のものがなく、そのため、内容物や成分等の検討が必要である。信頼できるメーカーであっても法的規制の違いから日本では販売、使用できないものは多く存在する。当然、日本では輸入商品として売られているが、薬事的見地からの検討を行い安全の確認を行った。MSDSによる安全性の検討を先におこなった。今回使用するものは薬事法に照らして問題ないとされた。

しかし、エアブラシメイクアップ商品の検討方法や検討課題を明確にするために使用しない商品を含め、それらの生理作用、特徴的成分の検討を課題とした。また、他の化粧品とはことなり、エアブラシ固有の吸引の問題があり、この点についても検討課題とした。

各国規制制度の特徴を踏まえ国際比較を簡単に行うことによって安全性への考え方を示すこととした。

薬事検討報告書は成果物として公表する。また、特別講義、外国人招聘講座、運用講義等を通じて、質問の多かったものをQ&Aとして簡単に整理した。実際問題として、専門学校美容、メイクにおいて薬学的見地に立った科学的事象の理解は難しいが、安心、安全の担保の確保の観点からすれば、多少の知識が必要と思われる。

特に、薬事法は2000年の改正により、ネガティブ、ポジティブリストの制限以外は企業責任において、すべてものが使用できるのである。これは、安全、安心の担保は企業が行うのであり、外国製品においては輸入者、個人購入者が担保するのである。さらに、プロのメイクアップアーティストにおいては自らが担保しなければならない。これはプロアーティストとしての責務である。

我々が目指すプロアーティストは、技術はもとより、アカデミックな知識を踏まえ使用することが本来の姿であるとしている。今後はいかに薬事および公衆衛生を担保して社会的役割を果たすかが重要である。

アドバンスとして、メイクアップアーティスト向けの薬事分析などを構築する必要がある。

4:本プロジェクトの評価

本プロジェクトは多くの参加校を得て、最終的に人材育成プログラムを作成することができた。さらに、そのプログラムを具体化した運用講義を通して、次年度からのエアブラシメイクアップのカリキュラム導入が決定した学校もある。この意味では即効力のあるプログラムが開発できたと評価できる。現在でも、次年度での講義の要請の問合せが来るほどである。

本プロジェクトではその周知が遅れたにもかかわらず多くの学校が興味を持ち、実際に多くの学校の参加を得ることができた。多くの学校が本プロジェクトの継続を望んでいることは本プロジェクトとしてはありがたい結果である。

総括して、本プロジェクトは多くの学校が必要としつつも躊躇していたエアブラシメイクアップへのアプローチの一助になったことは間違いない。

今後は、本プロジェクトの成果物の配布や公開により、より簡単に、より素早くエアブラシメイクアップを導入することができようになった。また、教授陣を即戦力として育てることができる。

参加校は美容メイクだけでなく、アートや介護、医療、さらにはフーネラルなどの幅広い分野からの参加があった。これはエアブラシメイクの応用の可能性を示すものであり、今後は個別分野への対応が必要とされる。

地域的には全国から応募があり、対象人数も多い。

以下は今回の参加校リストである。

専門学校東京ビジュアルアーツ	メイク学科	東京都
ハリウッドビューティ美容専門学校	美容専門課程	東京都
山野美容専門学校	美容科	東京都
早稲田美容専門学校	トータルビューティ科	東京都
群馬県美容専門学校	ビューティースタylist科	群馬県
ECCアーティスト専門学校	トータルビューティ科、他	大阪府
金城大学	薬学部	愛知県
富山県理容美容専門学校		富山県

国際デザイン・ビューティカレッジ	トータルビューティ。美容科	高知県
東京マックス美容専門学校		東京都
山野芸術短期大学	美容総合学科	東京都
名古屋大学	医学部保健学科	愛知県
専門学校東京デザイナー学院	メイクアップアーティスト科	東京都
名古屋観光専門学校	ブライダルビジネス学科	愛知県
大阪デザイナー専門学校	メイク学科	大阪府
大阪ビジネスカレッジ専門学校	トータルビューティ科	大阪府
大阪観光専門学校	ブライダル学科	大阪府
専門学校九州スクールオブビジネス	メイクアップアーティスト学科	福岡県
九州観光専門学校	ブライダル学科	福岡県
宮崎サザンビューティ専門学校	トータルビューティ科	宮崎県
三重ヘアアーティストアカデミー専門学校	メイク科	三重県
東京ビューティアート専門学校	トータルビューティ科	東京都
東京ビューティアート専門学校千葉校	トータルビューティ科	千葉県
横浜ビューティアート専門学校	トータルビューティ科	神奈川県
名古屋ビューティアート専門学校	トータルビューティ科	愛知県
大阪ビューティアート専門学校	トータルビューティ科	大阪府
仙台ビューティアート専門学校	トータルビューティ科	宮城県
福岡ビューティアート専門学校	トータルビューティ科	福岡県
札幌ビューティアート専門学校	トータルビューティ科	北海道
広島ビューティアート専門学校	トータルビューティ科	広島県
東京フィルムセンター映画・俳優専門学校	メイク・特殊メイク専攻	東京都
仙台モイジャパン美容専門学校	美容科	宮城県
住田美容専門学校	美容専門コース、メイクネイルコース	東京都
ビューティーツ神戸日本高等美容専門学校	美容科・アカデミー	兵庫県
埼玉県理容美容専門学校		埼玉県
クレア ヘアモード専門学校		新潟県
穴吹ビューティ専門学校	トータルビューティ科	香川県
アンビシャス国際美容学校	美容科	大分県
旭理容美容専門学校	美容科	三重県
名古屋美容専門学校	美容科	愛知県
明星国際ビューティカレッジ	美容科	大分県

国際ビューティモード専門学校	ビューティプロデュース科	新潟県
静岡服飾美容専門学校	美容科	静岡県
東京総合美容専門学校		東京都
資生堂美容技術専門学校		東京都
札幌ブライダル専門学校	ビューティーコーディネーター科	北海道
静岡デザイン専門学校		静岡県
ルトーア・東亜美容専門学校		大阪府
真野美容専門学校		東京都
大手前短期大学		大阪府
堺女子短期大学		大阪府
明日香美容文化専門学校		大分県
ESPミュージカルアカデミー専門学校		東京都
中日美容専門学校		愛知県
こころ医療福祉専門学校		長崎県
大阪モード学園		大阪府
阿佐ヶ谷美術専門学校		東京都
日本ヒューマンセレモニー専門学校		神奈川県
学校法人宮田学園		神奈川県

以上の結果を踏まえると、当初の目標は達成しており、今回のプロジェクトについては目標を達成した。

今後は興味を示した学校の導入度合いにより本プロジェクトの真価が問われることになる。今後も導入度合いを調査し、本プロジェクトの真価を評価する。

補足ながら、上記参加校のうち31校での次年度でのエアブラシメイクの講義がなされることが決定した。

終わりに。

本プロジェクトを通じて感じたのは、法律の不整備である。

理論的、技術的にメイクアップが確立しても、産業として確立して初めてその地位が確立されます。

欧米では、メイクアップアーティストは自由に仕事をすることができますが、日本では美容師法によってメイクアップアーティストは自由度が制限されています。

美容師法は公衆衛生の確保を目的とし、美容師の資格を規定するとともに、美容師の仕事の範囲を規定しています。

特に美容師法第二条において、

第二条 この法律で「美容」とは、パーマントウエーブ、結髪、化粧等の方法により、容姿を美しくすることをいう。

2 この法律で「美容師」とは、厚生労働大臣の免許を受けて美容を業とする者をいう。

3 この法律で「美容所」とは、美容の業を行うために設けられた施設をいう。

と規定し、化粧等のなかにメイクアップは含まれると解釈されています。

したがって、サロン(ヘアーサロン、ブライダルサロン等)でメイクアップを行う場合は美容師免許や美容所の登録が必要となります。ただし、映画やTV、アートなどの作品制作の一環としてメイクを行う場合や商品を販売するために試用的にメイクを行う場合は含まないとされています。

しかし、アート系の技術のあるメイクアップアーティストは施術者としてサロンでは働くことができません。また、トータルビューティ科などの美容師免許を取らない場合も、技術修得してもサロンでは施術者として働くことができません。これは美容師法がメイクアップは美容師の独占的職種であると規定するために美容師免許がないと法律違反になるためです。

他方、美容師免許の取得においては、ヘアー技術のみが試験され、メイクアップ技術は試験されません。このため、ヘアー技術のみが偏重され、メイクアップ技術は履修することがない場合もあります。実際に、多くの学校ではメイクアップの必要性を承知していても、国家試験対策としてメイクアップが必要ないので、メイクアップに予算を割り当てられないことが多くあります。このように、ヘアー技術のみを修得すれば、メイク技術がなくともメイクが施術できることとなります。

また、先に述べるように、社会の発展、高度化につれて、美容全体が、ヘアー、ネイル、エステ、メイク、トータルビューティなどに分業しているために、一人で多くの技術を修得するには無理があります。現実には、それらが独立して学科として教えています。それらの学科の中には美容師免許を取得しないものも多くあります。

しかし、エステやネイルは美容師法では「化粧等」に含まれると解釈されていますが、その運用においては、首から上を美容師法の範疇とし、実質的適用を回避しています。

ネイルやエステは美容師法の規制対象外として簡単にサロンを開業することができるのはこのためです。この意味ではネイルやエステは、コンプライアンスは守られているのですが、メイクの場合はコンプライアンスされていないこととなります。

最近の国の見解では、ネイル自体も「化粧等」にあたり、美容師法の射程は首から上である必要はなく、公衆衛生の確保の観点および美容師法の趣旨からすれば、美容師の独占的職種である

との意見があります。よく解釈すれば、美容師免許を持ったうえで、さらにメイクアップの技術を身に付ける必要があります、美容師は基礎でありアドバンスとしてメイクアップが確立するとも言えます。しかし、現実にはヘアーに携わるかたはヘアーを中心に、メイクに携わる者はメイクを中心に仕事を行っているし、ヘアーとメイクは異なる仕事であり、異なる分野であるのですから、これは詭弁にすぎません。このように、メイクアップは日本では中途半端な地位にあります。

今後は、何らかの形で法的改正や法解釈の変更によって、高度な技術と知識を持つメイクアップアーティストが自由に職に就けることが望まれます。

本来の理論、技術修得を修了した場合に、産業活動の一端を担うべきものが、その分野で働けないという非合理性において、制度的矛盾を解消することが必要です。

本プロジェクトでは、法的地位がどうあれ、スペシャリストとしてのメイクアップアーティストが必要とする知識と技術の確立を第一義的なものとし、その一端としてエアースタイルメイクについてまとめたものです。

(5) 成果物の配布

本プロジェクト(実証研究、特別講義、外国人招聘講座、運用講義)に参加した学校に成果物を配布する。

ただし、配布はプロジェクト終了後(2011/3/31)以降になる。

配布成果物は、テキストブック(エアースタイルメイクアップ 101)、ワークブック、DVD、薬事関係報告書、アンケート報告書である。